

よみさんぽ

大宮見沼



第13号

写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集

みんなで育てるやどかりテラス

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会

特集

みんなで育てるやどかりテラス



こんにちは、都祭俊一郎です。私は建築士として、やどかりの里の事業所づくりに携わってきました。いつしかよみさんぽ編集委員の1人となり、編集会議にも参加。よみさんぽでは、編集会議という「場」と、それぞれ編集委員の意思疎通が核となっています。そういう意味ではなんとも自由なコミュニティ誌。関わる側は居心地がいいのですが、何かシンボルとなる場所があれば、読み手の皆さんと接する機会がもてるのではないかと、という妄想をしていました。

そんな折、やどかりの里の用地活用の話が舞い込みました。緑あふれる公園をつくれたらと、埼玉県「身近なみどり民間施設緑化事業」に助成申請し、無事「やどかりテラス」が完成。さいたま市見沼区中川の地に突然現れたやどかりテラス。今後の活用を、やどかりの里の3人の方と話し合ってみました。

プロフィール（左上写真右から）

都祭俊一郎…やどかりテラスの設計を行う。

宗野 政美…見沼区染谷にあるやどかり情報館の職員。農と福祉を結びつけた新事業を開始した。

大澤 美紀…サポートステーションやどかりの職員。メンバーとやどかりテラスの構想を練る。

日野 陽子…やどかりの里本部で総務の仕事を行う。園芸が趣味で草花をテラスに植える。

やどかりテラス、完成！

都祭 ついにやどかりテラスができあがりました。まだまだ緑が寂しい気もしますが、できあがってみて印象はいかがですか。

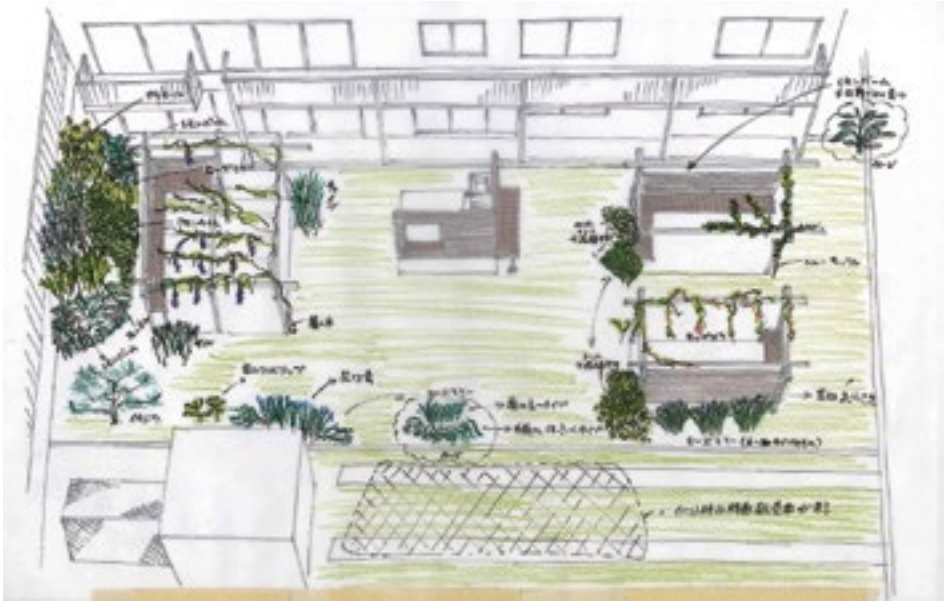
大澤 工事中、朝のミーティングではメンバー^{注)}に日程表を見せて進捗をみんなで見守っていました。まだ閑散としていますが、これからイメージ通り緑が生い茂る公園になるようみんなで育て、つくっていくことが大事になります。

日野 植物は苗を植えると育つのにある程度時間がかかるので、完成したイメージをもちづらいですね。我が家で育てたワイヤープランツを置いたり、モッコウバラがもっと生い茂った時のイメージをもってもらえるよう工夫していけると楽しいかなと思います。

都祭 大澤さんにはメンバーの皆さんから希望を聞いてもらったりしましたが、いかがでしたか。

大澤 動物を飼いたいと言っていた人もいたけど却下しました（笑）。

都祭 でも、ヤギが飼えたらかわいいですよ。



注) やどかりの里では障害のある人をメンバーと呼んでいる。

日野 ヤギの乳でチーズを作ってピザに乗せるといいですね。

大澤 ヤギの案は出てたね。ヤギとか、池をつくって欲しいとかね。

日野 そう、池なんか水場があるとまた違いますよね。

宗野 犬を散歩させていると、犬を介して飼い主とも普通に会話ができるでしょ。例えば、この公園にヤギがいて水場があると想像すると、近所の子どもたちが見に来て触れたり、大人も一緒についてきておしゃべりをする広場になるかもしれない。

農と食とのかかわり

都祭 農業プロジェクトの関連性を意識して、植える植物も主にハーブを選んだり、遊び心でピザ釜を設置したりしましたが、農業や食についてどんなことが考えられますか。

宗野 今、チャレンジ・ザ・農業ということで、農福連携事業を始めました。農に親しみ、楽しみながら技術を身につけたり、そこを目指していくために何が必要かをみんなで考えようということで進めています。

日野 ルポーズ（やどかりの里の事業所で障害のある人が働く喫茶店）が木曜日にサポートステーションへランチを作りにきているので、今日は「ピザの日」としたり、自家製のピザ生地を持ってきてもらって、みんなで焼いて食べたり……すぐにできることはあるような気がしますね。お菓子も焼けるし。

大澤 テラスができた時に、サポートステーションの利用メンバーといっしょに、何をしようか考えたんです。ピザ釜ができたらみんなでピザを作って食べるイベントをやろうとか、このグループは何をやりましょうって。みんなそれぞれアイデアを考えている段階です。自分たちの活動プログラムに入れて、グループごとに企画を立てて、その中にピザも入りましたね。種をまいて、育てて、作って食べるのがつながってくると面白いかなと思います。

日野 サポートステーションにいる人とのつき合いが苦手という人でも、植物を育て、雑草を抜いたり、そこにいる生き物を見るとほっとできるのではないかなと思うと、ハーブ園ができるのはとてもいいなと思いました。

宗野 育てるといっても、できたものを管理するだけでなく、種を植えるところから始めるとまた違うんだそうです。種は土に置いた瞬間から、土の情報を得ようとしていると聞きました。だから、種は意識をもった生き物なんですね。土をかぶせると、その土の温度、微生物の数、バクテリアの数も種はわかっている。自分が育てたものが大きくなっていく体験をすると、自分が楽しいし、人に感動を与えることもできる。

都祭 種から考えるという視点は今回の計画では考えなかったけれど、本来はそうあるべきですね。

日野 ちょっと日当たりは悪いけど、日陰のほうがよく育つ品種は選べばあるし、テラスにある築山の所がせっかく更地なので、小さく区画を切って、ここに誰の種……と植えたりしても面白いですよ。

宗野 一粒万倍という言葉があって、1つの種が万のものになっていくという意味です。草刈りは、農家の人がいちばん最初に覚えさせるんだそうです。小さい時からやるんですね。草を見ずして草を刈るのが極意。芽が出る前の、根のところから草を刈るというのが基本らしいですよ。

地域交流のきっかけを

都祭 大澤さんは、やどかりテラスを介してどのように地域とのつながりをもっていこうかと考えていますか。

大澤 ワークショップをしていて、メンバーが「僕たちから関わりましょうとって関われるものじゃないので……」と話していたんですね。だからこのメンバーと地域の人たちが自然に交流できるような工夫が必要かなと思います。例えば子どもが自然に足を踏み入れられるよう移動図書館を停めてもらったり、自宅で採れた野菜の販売など、地域のネットワークを通して、徒歩圏内の人たちが立ち寄れる場所にできるといいかなと思ったりします。

都祭 実はここを助成対象とするかどうか、県で2回も協議にかけてもらいました。我々からも必要性の高い先駆的な事業であること、かつ地域貢献であるという説明を重ねて許可をいただいた経緯があります。

宗野 耕作放棄地は荒地地で使い物にならずに放棄されているけれども、そこをうまく活用していくと宝の土地になるわけです。だからこのテラスも、まずは場所を知ってもらって楽しんでもらう。そうすると、何かが変わっていくだろうなと思います。そういう企画を考えていかなくてはと思うんですね。

大澤 季節ごとに色とりどりの花に誘われて、散歩の途中にベンチで一休み。パンやお菓子の移動販売車を目当てに集まる人たち、地元野菜やハーブの販売の企画。手作り味噌の講習なんかもいいかもしれませんね。

都祭 これからの可能性もたくさん見えてきました。大切に使用してもらいながら、ぜひ有意義に活用していただければと思います。

やどかりテラス住所 さいたま市見沼区中川 562

あの街
この街

俊一郎が行く・7

スケッチでお話ししましょう

やどかりテラスがオープンしました！

こんにちは！ 春の空気とともに、やどかりテラスが完成しました。しかし、まだまだ植え込みは寂しい状態なので、これからの展開が楽しみであり、心配でもあります。

建物の設計には慣れているつもりでも、公園やお庭の設計は同じようにはいきません。植物は生き物ゆえに思うにまかせないところもあり、どのように成長し、どのように色づくのか、季節ごとの変化をイメージしなくてはなりません。それゆえに、植え込みの実例を見て回り、時にはスケッチなどをして、植物がもつ微かな個性を感じ取ろうとしてきました。

若い実習生

話は変わりますが、私の事務所へと夏休みには大学から紹介された実習生がやってきます。進行中の工事があれば、その見学に連れて行ったりして過ごします。少し高学年の学生であれば、ちょっとした実務のお手伝いを通して、経験を積んでもらうようにしています。しかし、ある年にやってきた学生さん、1年生ゆえにお手伝いを頼もうとしても、基礎的な知識ですら勉強中なので指示するにも一苦労。こちらも説明ばかりに時間を取ってはいられません。悩んだあげく、「実務的なこと」として毎日スケッチをすることにしました。

スケッチの極意

学生たちを「各々でスケッチしておいで！」と放っておいたら、わざわざ実習に来てもらう必要はありません。なので、炎天下の中をめばしい対象物を定めて、一緒にスケッチをしに行きます。まあ、嫌いではないのですが、私の事務所のまわりには、水門や隅田川にかかるいくつかの橋りょうなど、比較的古い構造物があります。そして新しい構造物も、スカイツリーや浅草の観光センターなどがあります。

さて、スケッチの制限時間は15分。最初は学生たちも写實的に描こうとして時間内には描き上がりませんでした。しかし、だんだんと意図を理解し、時間内に終わらすことができるようになっていきました。

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）



「スケッチ」と「絵画」

なぜ、15分なのか。

写実的に仕上げようとする、どうしてもしたくなるのが影をつける作業だったりするのですが、それをするには15分では短すぎますし、絵としてごまかすことができずしてしまいます。普段、私が仕事として作成する図面は、私がこれから作る建物について意図することを、寸法や仕様とともに描き、工事をしてもらう人に伝えるための（広く言えば）スケッチのようなものです。実際、工事現場では、図面らしい図面よりも伝えたい意図に特化したスケッチのほうが、意思疎通がしやすかったりします。写実的に描いた「絵画」では、雰囲気しか伝わりません。（もちろん、雰囲気を伝える能力も大事ですが）

夜、学生たちが帰る前に、その日に描いたスケッチの講評を行うときは、絵の上手い下手については触れずに、対象物に対する学生個々の視点と、スケッチの中にどのような情報が留められているかを確認する講評会となりました。

木と森

話は戻って、やどかりテラス。濃い色をした木の壁は、遺跡のような止まった時間を連想するように意図しています。そんな遺跡だからこそ、植物という生命が強い対比をもって、輝いてくれたらと思っています。生い茂るものも少なく寂しい風景ですが、その隙間を満たすために、生命のスケッチを続けていき、その時に気がついたことをこれからも提案しつつ、時間をかけてこのお庭を皆さんと育てていけたらと思います。「木を見て森をみず」もよくないですが、「森をみて木を見ず」もあってはならないことですよ。



やどかりの里の仲間たち・12

住めば都

おやけ みちこ
小宅 迪子さん (62歳)

大宮中部活動支援センターに通い始めて約1年になります。長年病院に入院していて、退院後はサポートステーションやどかりでひとり暮らしの練習をしました。今は活動支援センターの近くでひとり暮らしです。最初は慣れない地域での生活に戸惑いましたが、少しずつ慣れてスーパーマーケットやコンビニに買い物に行けるようになりました。入院中には考えられなかった夜のスーパーへの買い物も楽しみの1つです。病院やサポートステーションは共同の生活でいつも仲間がいたので、ひとり暮らしを始めた頃は、孤独や不安でいっぱいでした。今は毎日のように活動支援センターへ行き、メンバーや職員と話をしたり音楽を聴いて過ごしています。それが生活リズムやメリハリ、安心感につながっています。これからももっとアパートの近辺を散策して、少し自分の視野を広げていきたいと思っています。

約40年間の入院を経て

加藤 藏行さん (74歳)

大宮中部活動支援センターを利用して約15年になります。約40年の入院、やどかりの里援護寮(現サポートステーションやどかり)、グループホームでの生活を経て、今はひとり暮らしをしています。退院して嬉しかったのは24時間自由で、食べたいものがおいしく食べられるということでした。病院の院内喫茶グループではトーストやサンドイッチを焼き、それが楽しかったのでやどかりの里でも喫茶店を開いたらどうかと提案しました。地方へ勉強にも行き、「喫茶ルポーズ」が誕生しました。そこで主力となって働き、皆からおいしいと言ってもらえるのが嬉しかったです。今は引退してしまいましたが、活動支援センターのホットサンドづくりではパン焼きをしています。皆で和気あいあいと作って食べることが幸せです。最近は心身に余裕がなく億劫になりがちですが、炊事、掃除、洗濯を頑張りたいです。

よみさんぽ 日誌

しだれざくら 枝垂桜のお花見



さいたま見沼の高速道路出口が近づく頃、左手の台地の上にひととき大きな木があることに気づくだろう。すくっと立ち、丸みを帯びた姿が目に入る。これは真言宗智山派慈眼山「円蔵院」の火伏身代不動明王の傍らに立つ^{けやき}欗の木、円蔵院は^{しだれざくら}枝垂桜と^{おおいちよう}大銀杏でも有名だ。境内には4本の大きな枝垂桜があり、その1本のシダレヒガンザクラは旧大宮市より1961(昭和36)年に天然記念物に指定され、2001(平成13)年にはさいたま市の保存樹木となった。大銀杏も保存樹木で、浦和側からも見沼田んぼ越しにその姿を見ることができる。

円蔵院の本堂には十一面観世音菩薩と如意輪観世音菩薩、隣の小さなお堂から移された延命地藏が奉られている。そして、お堂の天井には龍が描かれている。見沼田んぼには龍神伝説があることや、そもそも龍は水を噴き火を止める力があると考えられていて、それゆえこの地のお堂の天井画にふさわしいでしょうと、ご住職の石田秀元さんがお話しくださった。

円蔵院とやどかりの里で思い出されるのは仲間たちとお花見だ。誰とどこで桜を見たか、様々な感情と記憶が桜の季節はよみがえる。精神科病院の中で季節を重ねたメンバーがこう語ってくれた。「13年の長期入院中も、春は病院の中庭に桜が咲いていた。咲いて散って葉桜となり、冬枯れと1年間を繰り返すのを何回も何回も見てきた。自分は何年後の桜の咲く頃に退院できるのかと思うと、苦しくて泣いた」。多くのメンバーは辛い経験を経て退院し、やがて当たり前前の暮らしを取り戻していく。花見をしよう、お弁当を桜の下で食べようと希望し、それに応えたのが料理教室だった。やどかりの里ではみんなで「食べる」「作る」を楽しむために料理教室が脈々と受け継がれている。ある時、講師の飯田たか枝さんと一緒に趣向をこらしたお弁当を作り、円蔵院で枝垂桜を眺めながら花見弁当をいただいた。少し風が冷たかった10年以上前の記憶だ。

今年は境内を散策し、^{ひもうせん}緋毛氈の席で^{のだて}野点のお薄を一服いただきながらの花見だった。こんなふう^のに過ごした桜の季節は、みんなの記憶にどう残っただろう。

(記 浅見 典子)

あなたの街のやどかりさん

大宮区障害者生活支援センターやどかり

地域で安心して暮らすために

地域で安定して暮らし続けるために

大宮区障害者生活支援センターやどかりの1日は、開所時間の9時と同時に鳴り始める電話でスタートします。障害のあるご本人からの相談電話もあれば、ご家族からの相談、医療機関や地域の支援機関、住民からの相談まで様々です。電話相談を受ける職員の一方で、面接室で相談を受ける職員、ご自宅や通っている就労支援事業所に訪問する職員など、電話や面接での相談、訪問や同行の支援などを行っています。1回の相談で解決、終了とならないことも多く、相談者の相談内容や状況に応じて必要な社会資源や福祉制度につなげるなど、その人なりの地域での安心した暮らしを続けていくための支援に取り組んでいます。

「あきらめ」から楽しみのある暮らしへ

20年以上精神科病院に入院していた女性の退院をお手伝いしました。その人は、病気は回復しているにもかかわらず、人生の半分以上を病院で過ごしていました。その長い入院生活の中で、自分のやりたいことや希望する暮らしを考える機会が失われていました。何を尋ねても「よくわからない」「できないよ」と話すのでした。退院後も入院中と同じように閉じこもりがちな生活をするその人を見て、ホームの管理人、行政職員など関係機関を交えて相談し、まずはホームから近い店に1人で買い物に行くなど地域での生活を体験することから始めました。それから約半年が経ち、「ここに買い物に行ってみたい」「初めて会う人は不安だから最初は〇〇さんと一緒がいい」など、今は買い物や映画、ヘルパーと一緒に掛けることを楽しみにしています。自分の希望する暮らしを描き始めたその姿を見ると、本当によかったと、私たちも元気をもらいます。

第 13 回

「大宮区障害者生活支援センターやどかり」は 2006（平成 18）年に開設した、精神障害のある人の地域の相談窓口です。3 年前に移転し、現在は大宮駅の東口、桜や新緑など自然を感じられる氷川参道から少し横道に入った住宅地の一角にあります。身体障害、知的障害のある人の相談窓口、「障害者生活支援センターみぬま」と同じ事務所で活動しています。

まずはご相談下さい

大宮区障害者生活支援センターやどかりには、毎年数 10 人の方からの新規相談があります。あるご家族は「よそ様に迷惑をかけるなら、家族でひっそり暮らしていれば……」との思いから、身内にも言えず、友人との付き合いも疎遠になり、誰にも相談できずに何年も経った後に支援センターへ相談に来られました。このように、どこにも相談できず障害のあるご本人やご家族だけで暮らしの大変さを抱えて悩まれている方も地域にはまだまだ多いと感じています。

いずれご本人が相談する時のために、家族が継続して相談に来られている方もいます。「困っているけどこんな状況じゃ相談できない」「どうせうまくいかない」と諦めずに、まずはご相談下さい。地域で安心して暮らしていくために必要なことを、一緒に考えていきたいと思っています。（記 阿部 友恵）

大宮区障害者生活支援センターやどかり

住所 さいたま市大宮区東町 1-141-6

第二吉田ビル 1 階

TEL 048-795-4720

* やどかりの里が運営している 3 区の障害者生活支援センターは、p15 をご覧ください。



人との信頼、つながりを大切にする土着の不動産屋さん



荻島 幸治さん (ケーオー不動産)

大宮駅から東に延びる大宮中央通りを進み、その先の大宮東中学校の側にケーオー不動産があります。地元の大家さんとの信頼関係を大切にしている地域に根ざした不動産屋さんです。今回は、街の不動産屋さん、荻島幸治さんにお話を伺いました。

お店に入ると荻島さんが満面の笑顔で気さくに声をかけてくださり、まるで親戚の家にお邪魔したようなホッとできる雰囲気です。

やどかりの里との出会い

荻島さんが不動産業界で働き始めたのは30年近く前、不動産会社を営んでいたお兄さんに誘われたことがきっかけでした。そして1994(平成6)年8月には、現在の堀の内町に独立しました。

荻島さんがやどかりの里を知ったのは、25～6年前。当時のやどかりの

里の職員が荻島さんの仲介でアパートを借りた時でした。やどかりの里は、精神科病院から退院する人や親から自立してひとり暮らしを目指す人のアパートを探していました。そして荻島さんの仲介で、やどかりの里も退院してくる人たちのためにアパートを借りることになりました。

大家さんへの働きかけ

当時、精神障害のある人を地域で支える資源は少なく、アパートを快く貸してくれる大家さんはほとんどおらず、断られることもあったそうです。また、今ほどアパートの物件も多くなく、大家さんが入居者を選ぶという時代背景でもありました。しかし、面倒見のいい荻島さんは、大家さんに説明をし、やどかりの里を理解してくれる大家さんを増やしていってくれました。

人間味を大切に

不動産業を運営していて心配なことは、火災や家賃の滞納、入居者間や近隣とのトラブルです。荻島さんは大家さんと日頃から連絡を取り合い、何かあった時にはすぐに柔軟に対応できるようにしています。「人と人との付き合いなので、必要な時には大家さんと入居者との間に入って調整をしたりすることも多く、それが大家さんの安心や信頼につながっていると思います」

ちなみに、やどかりの里を利用している入居者については、火災や家賃の滞納、未納が一度もなく、大家さんにも安心して紹介ができると荻島さんは言っていました。

地域の変化を感じとって

近隣地域を見ると、新しく転居してくる人が減ってきているそうです。「若い人たちは駅近くのマンションなどに住み、年配の人たちがこの地域に来ているという印象がある。その人たちのニーズに合う地域になってきているように思う」と荻島さん。また昨今、新築のアパートや戸建てなどが次々に建てられ、空き物件も増えてきているそうです。「新しい建物を建てるのに優遇措置があるのに、古い建物を優遇する措置が

ない。そのような措置があるといいなと思います。古いアパートが役立つ時代がくるのではないかと、賃料の安さも含めて、ニーズが出てくるのではないかと考えています」

安心して住み続けられるように

「不動産会社の儲けが重視され、入居者や大家さんに過重とも思われる個人負担が発生している場合があると見聞きします。正直、酷いなともうこともあります。貧富の差があまりない世の中になったら、喧嘩もなくなり、普通に仲良く住んでいけるようになると思います」と大家さんや入居者の立場に立つ荻島さん。

安心して住み続けられる住まい、これは誰もが望むものです。「この仕事をしていると、いろいろな人と知り合えるのが楽しい。厳しい世の中だけでも楽しくしていきたい」と荻島さんは話してくれました。

この地域に安心して住みたい方、アパートを安心して貸したい方はぜひ一度荻島さんに相談をしてみてください。 (記 鈴木 裕貴)

* ケーオー不動産

さいたま市大宮区堀の内町 1-112-1
TEL 048-641-7393

インフォメーション



営業時間 月～土 10.00-17.00
さいたま市大宮区天沼町 1-136-2

募集

- ☆作品展示したい方
- ☆雑貨販売したい方
- ☆貸しスペースあります

詳細は ☎ 048-657-0202



埼玉県産小麦粉を使用 手づくりまんじゅう

まごころ



さいたま市中央区本町東 5-9-7
Tel. 048-857-2783 Fax. 048-857-2769

**YUM! YUM!
YUMMY!!**

<http://www.yadokarininosato.org>

世界中のテーマパークで愛されている
Gold Medal 社製
POPCORN

あなたの街のイベントやお祭りに呼んでください！ 出張します！

<http://www.yadokarininosato.org/>

公益 社団法人 やどかりの里 (さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館)

Phone. 048-680-1893 Fax. 048-680-1894

e-mail : print@yadokarininosato.org

おいしく食べて
健やかに

栄養バランスのとれた
18種類の豆を配合

良食 1食 550円
月～金、1食からお揃いします！

※お好みや刻み食も対応します
※ご予約の日に到着いたします

エンジュ 0686-7875
＜受付＞月～金 (祝日を除く) 8:30～18:00

インフォメーションコーナーの
掲載広告を募集しています！

1マス (64 mm * 46 mm) 5,000円



事務用封筒・名刺・軽オフ印刷のことなら

あなたの街の印刷屋さん

やどかり印刷

Tel 048-680-1893 Fax 048-680-1894
さいたま市見沼区染谷 1177-4

こころの悩み、ちょっと話してみませんか…?



お住まいの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい



見沼区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-682-1101
大宮区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-795-4720
浦和区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-793-6373

～精神障害のある方、そのご家族の地域の相談機関です～



エプロン



学校グッズ



防災ずきん

公益社団法人 やどかりの里

すてあーず

南中野 844-22 イエローハウス
Tel/688-8223

布製品をオーダーメイド製作いたします!

お気軽にご相談ください。

1F リサイクルショップ「すてあーず」営業中!

Tel/687-4483 (画)



書籍案内 やどかり出版 〒337-0026 埼玉県さいたま市見沼区染谷 1177-4 TEL 048-680-1891

JD ブックレット 1



私たち抜きに私たちの
ことを決めないで

藤井 克徳 編

2014年6月 定価 1,000円

JD ブックレット 2



病棟から出て地域で
暮らしたい

藤井 克徳 長谷川利夫
増田 一世 著

2014年9月 定価 1,000円

大宮見沼よみさんぽ

作者紹介

写真家 野口勝宏さん

のぐちかつひろ／写真家。福島県在住。「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と「福島の花」シリーズを制作。開催中の福島県観光キャンペーン「福が満開、福のしま」においては前年に続いてJR東日本のメインイメージに起用され、ポスターや駅構内装飾・ラッピング車両を花で彩る。福島空港においてもANA全日空カウンターや搭乗橋、到着ロビーを花の写真作品で彩っている。著書に「ここは花の島」などがある。「福島の花」シリーズは<http://noguchi.jp.com>にて閲覧可能。Facebookは「福島の花」 「野口勝宏」で公開中。

表紙：ハナカツミ

繊細な細い葉と小ぶりで涼やかな花が初夏の風を運んでくる。

郡山市の花として知られているがもっと知ってもらいたい美しい花。

題字 宗野文さん

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第13号

発行 2015年4月（春号）

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

* 弁当の調理・配達パートさん募集

やどかりの里が運営しているまごころでは、日替わり弁当の製造・販売を行っています。昼食弁当の調理と配達をするパートさんを募集しています。（主な配達地域は中央区周辺）

曜日／木・金 時間／8：30～12：30

詳細は直接お問い合わせください。

まごころ（中央区本町東5-9-7）

TEL 048-857-2783（担当 檜山^{ひやま}うつぎ）

自分史や自伝を

本として残しませんか？

出版のプロが安心と信頼の技術を提供・サポートします

やどかり出版 さいたま市見沼区染谷 1177-4

Tel.048-680-1891 Fax.048-680-1894